

2009年度日本ポルトガル・ブラジル学会 大会プログラム

会場：東京外国語大学 事務棟 2F 大会議室（〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1）

日時：2009（平成21）年 10月24日（土） 午後12時30分受付開始 開会13時

（なお、参加費（会場費、お茶代等）として一人あたり500円（学生無料）を徴収いたしたく存じます。）

2009（平成21）年 10月24日（土）

13:00～13:05 開会の辞

— 研究発表 —

13:05～13:35 「現在 vs 完全過去×2×2×2+1 としてのポルトガル語叙法・時制体系」

牧野真也（東京大学非常勤）

13:35～14:05 「中世ポルトガル語テキスト Vidas de Santos における複合時制形式について」

水沼 修（リスボン大学大学院）

14:05～14:35 「ルラ大統領のポルトガル語 — スピーチに基づく批判と評価の考察」

住田育法（京都外国語大学）

14:35～15:05 「ヴァルガス政権とヴィラ＝ロボス」

高橋亮太（京都外国語大学大学院）

15:05～15:20

休

憩

15:20～15:50 「中国返還後のマカエンセ（Macaense）のエスニシティ変容
～マカオ在住マカエンセ16名の聞き取り調査から～」

内藤理佳（上智大学非常勤）

15:50～16:20 「ポルトガル再独立期におけるセバスティアニズモと国家理性に関する一考察
— 対カスティージャ国王宛て文書から —」

荻野 恵（上智大学非常勤）

16:20～16:50 「理性的信仰心 — ペソアアの神思素の原初形態」

渡辺一史（ポルトガル・カトリック大学大学院）

16:50～17:05

休

憩

17:05～17:35

会

員

総

会

閉

会